様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25　年　5　月　10　日現在

機関番号：10101
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：22500531
研究課題名（和文）日米体育交流に関する実証的研究-アメリカン・ボードの日本宣教と近代米国体育の移植
研究課題名（英文）The empirical study on Japan-U.S. Physical Education Exchanges-Missionary Work in Japan by the American Board of Commissioners for Foreign Missions (ABCFM) and an Introduction to Modern American Physical Education in Japan
研究代表者
大櫃　敬史（OBITSU TAKASHI）
北海道大学・大学院教育学研究院・教授
研究者番号：00203927

研究成果の概要（和文）：米国からわが国に伝えられた近代体育の諸相を特定の宗派—コングリゲーショナル派（会衆派）—に注目をして、日本及び米国に所蔵されている史料によりその内実を検討した。結果として、当初アメリカン・ボードは、キリスト教を日本に布教する傍らその一手段として体育の布教を目論んでいた事実が判った。その際リーランドを日本に派遣したアマースト大学は、コングリゲーショナルの力強い支持を得て成立した大学であり、わが国への体育移植に当たっても、人的・教育的また思想的にも夥しい影響を及ぼしていることが判明した。リーランド帰国後も米国政府は、長い間日本でのアマースト方式の体育の行方に関心を示していた事実も明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This paper reports an examination of actual situations regarding various aspects of modern physical education imported from the United States to Japan. Focus is placed on the Congregationalist denomination based on historical records kept in Japan and the U.S. The study revealed that the American Board of Commissioners for Foreign Missions（ABCFM）initially planned to popularize physical education in Japan as part of its missionary efforts during work to propagate Christianity there. It was also found that Amherst College（an institution established with strong support from Congregationalists that dispatched Dr. George Adams Leland to Japan）had enormous personal, educational and ideological impacts on the introduction of physical education in the country. The study outcomes further revealed that the U.S. Government had long shown an interest in the future of the Amherst Plan for physical education in Japan even after Dr. Leland returned to the U.S.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：健康スポーツ科学・身体教育学
キーワード：身体運動文化論・教育学・日本史

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は「日米体育交流」について、これまでに予備調査として米国連邦議会図書館、教育省（局）、マサチューセッツ州立大学、アマースト大学、ハーバード大学ホートン図書館・同大学医学部図書館及びジョンズ・ホプキンス大学特別資料室等重要な資料が所蔵されている多数の場所を訪問し、このテーマに関する資料収集・研究討論を行って来た。これらのことから得られた成果、知見を元に本研究を進めて行く準備がある。まず手始めに『近代学校体育の父リーランド博士全集』第一巻（2003）を刊行し、わが国に近代体育を齎した最大の功労者であるリーランドの全業績を公表した。次に日米体育交流に着手する発起点となったリーランドを日本に招聘する経緯について、アマースト大学に所蔵されている書簡に基づいてその全容を明らかにした。比較研究としては、お雇い外国人教師として、滞日中のリーランドの書簡を通じて、当時本国の恩師に宛てた手紙に依り、日本の体育事情等の紹介を行った事実を紹介した。またリーランドの通訳として活躍した坪井玄道が、その後ヨーロッパに留学した際に、帰国の途上立ち寄った米国において、リーランド帰国後のわが国の体育事情について行った演説・体育視察についても明らかにした。またキリスト教宣教の傍らわが国に体育を伝えたアメリカン・ボード日本ミッションの活動に注目をした（大櫃「アメリカン・ボード日本ミッションの活動と日本近代体育」2007）を発表した。しかし以上の研究は、日米体育交流に関する基礎的史料として、その一部から成り立ったものである。すでに収集が終了している史料の全体的な分析を進め、個別の資料間の関連性、意義等の吟味を十分に行い、日米相互の体育交流の実像を明らかにして行く必要がある。

２．研究の目的

本研究は、日米両国に所蔵されているアメリカン・ボード日本ミッションの往復書簡及び報告書を駆使して、米国がわが国近代体育に及ぼした強い影響について、従来見られなかった新たな視点を提示してわが国の近代体育の成立過程を再構築することを主な目的としている。本研究では、この時期わが国に派遣された宣教師たちが在留中、本国のミッション本部に宛てて発信した夥しい数の書簡がこれまでに収集・蓄積されて来ている。ここでは資料蓄積の成果に着目をし、これまで教育制度、政策を中心とした教（体）育史研究では描き切れなかった方法論を見直しアメリカン・ボード関係文書を主要な手がかりとしながら以下の二点について明らかにして行く。(1) 日本近代体育の成立を横断的な視点—1870 年代を相前後して、わが国に導入された体育を日米相互の関係に注目して一で捉える。(2) 優れたキリスト教文化の所産として日本に伝えられた体育—どの様な理念に基づき、体育を通して何と伝えようとしたのかーを特定の宗派に立ち入って検討する。その際わが国に滞在した宣教師やお雇い外国人たちの人的交流にも着目し、彼等の教育活動の全体を探って行く。〈期間内に明らかにすること〉(1) アメリカン・ボード来日アメリカ人宣教師文書の調査及び分析、(2) アマースト・グループにおける体育の実態についての解明、(3) アマースト・グループと札幌農学校の結びつきについての解明

３．研究の方法

平成 22・23 年度の研究計画・方法

研究代表者は、これまで 3 度にわたり予備調査として、米国連邦議会図書館を始めとして、教育省及び多数の大学図書館・特別資料室を訪問しこのテーマに関する研究討論及び史料収集を行って来ている。これらのことから得られた成果、知見を元に本研究を精力的に進めて行く。

平成 22 年度の研究計画・方法

(1) 日米体育交流に関する基礎的史料の分析・検討

①体操伝習所を創った群像たち

②マサチューセッツ州立農科大学における体育関係資料の分析・検討

③ニューイングランド 6 州その他各地における学校体育関係資料の分析・検討

(2) 米国議会図書館所蔵の体育関係資料の調査・分析

①米国教育省年報その他刊行物、米国農務省年報その他刊行物、Mass 州農務局年報

②米国議会記録その他刊行物

③諸会議関係記録その他刊行物

平成 23 年度の研究計画・方法

(3) アメリカン・ボード来日アメリカ人宣教師関係文書の調査・分析

(4) 日本の先駆となったアマースト・グループにおける体育に関する先行研究の整理及び史料の調査・分析

(5) アマースト・グループと札幌農学校との結びつき

平成 24 年度の研究計画・方法

ここでは、初年度の検討結果を再吟味しながら、不足個所が生じた資料補足を行うために、現地米国を訪れて資料収集及び研究討論を行った。外国出張旅費は、本目的を遂行するために申請するものである。最後に写真及び年表等の作成、地図の添付を含む本研究の取りまとめを行う。

「日米体育交流に関する実証的研究」

（1）第一期（米国体育の導入期）1825～35年

①米国における学校体育の始まり

②近代米国体育導入に尽くした人びと

③近代米国体育の内容

④米国体育普及の基盤

（2）第二期（米国体育の開花期）1860 年以降～

⑤アマースト大学体育学科の創設（1860年）

⑥体操教員の養成–Dio Lewis の果たした役割

⑦Morill Act の制定–全米の農科・工科大学におけるMilitary Drill の導入・展開

⑧Physical Education Low の制定–「体育」正課への動き

（3）第三期（日本における米国体育の受容期）1870 年以降～

日本近代体育の創始–先進モデル校三校にみる体育の共通性

⑨同志社の事例

⑩体操伝習所の事例

⑪札幌農学校の事例

４．研究成果

本研究の成果として、以下の諸点を挙げることができる。

（1）アメリカン・ボード来日アメリカ人宣教

師文書・報告書の分析

アメリカン・ボードは、お雇い外国人教師リーランドの招聘及び任免問題に深く関わっていた事実が判明した。また離日後の彼の動向を巡り、当ミッション専属の医師として採用したい旨の要請までも行っていた事も明らかになった。

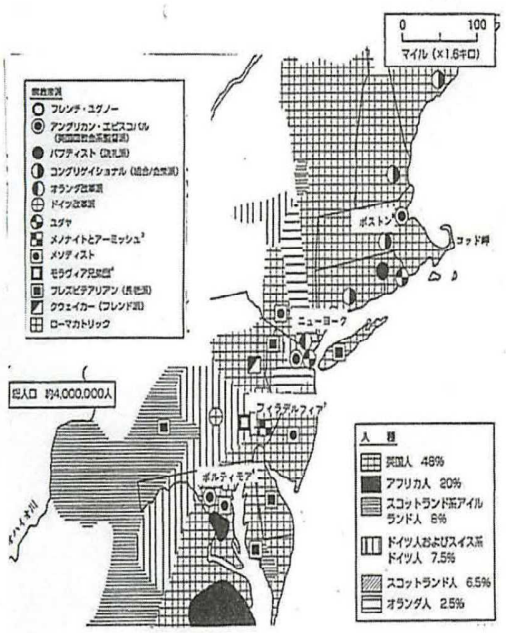

図1 移民の民族的背景と宗教宗派（1790 年）

（2）アマースト・グループにおける体育の実態

わが国の近代体育の直接的モデルとなったのは、アマースト・グループの体育がその原型であると見做される。キリスト教の一派であるコングリゲーショナルの影響が特に強かった米国側の三校–マサチューセッツ農科大学、アマースト大学、ウィリストン・セミナリーの相互の関係は、人的、教育的また思想的においても深いつながりが認められた。ここで見た関係は、すなわちわが国の事例となる三校–札幌農学校、体操伝習所、同志社における関係にも重層的に深く関与している事が判った。

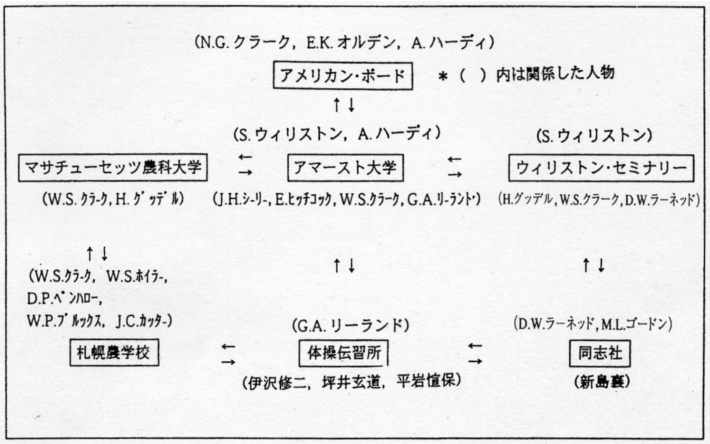

図2 アマースト・グループ・日本とアメリカン・ボードの関係

（3）アマースト・グループと札幌農学校の結

びつき

アマースト・グループの影響の強かった札幌農学校における体育は、米国から招聘された教師たちによって、指導・助言を受けて次第に定着して行った。

本研究に関する資料収集の過程で、特に興味深いテーマが見出された。a）アマースト大学における体操プログラムの実験的試み一会衆派ジャーナルにみる記事の分析を通して一、b）アマースト大学体育館の成立過程、c）G.A.リーランドが行った体育授業の評価について一東京師範学校生徒によるアンケート分析の結果–である。今後の課題としたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０件）

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者 大櫃　敬史（OBITSU TAKASHI）
北海道大学・大学院教育学研究院・教授
　研究者番号：00203927

(2)研究分担者
（　　）

　研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

　研究者番号：